

令和5年度第2回庄原市特別支援教育研修会

令和5年10月11日(水)14:30~16:35 庄原市民会館

第2回庄原市特別支援教育研修会は、「特別支援教育の校内支援体制の中核を担う特別支援教育コーディネーターの資質の向上を図るとともに、特別支援教育の充実に向けた組織的な取組について理解を深める。」ことを目的に、研修会を行いました。

【講話】「本市の特別支援教育について」

庄原市教育委員会 指導主事 片山 博子



- 本市における特別支援教育の状況について講話を行った。
- ・本市においても、支援の必要な子供の割合は増加しており、特別支援教育の一層の充実が求められる。
- ・特別支援教育の充実のためには、個別の教育支援計画の作成・活用や校内委員会の開催等、計画的・組織的な取組が必要である。

【参加者の感想等】

- ◆一人一人の実態把握を適切に丁寧に行い、その子の強みに着目し、可能性を引き出すような支援を職員で話し合い、実践していきたいため、校内委員会を充実させていきたい。

【講義】「特別支援教育の充実に向けた組織づくり」

東広島市立入野小学校長 竹野 政彦



- 障害のある児童生徒がもつ困難さに応じた指導・支援の具体や、特別支援教育の充実に向けた組織的な取組について講義を受けた。
- ・特別支援教育の理念の中で、持てる力を高めることが重要であり、イメージ化の為、見せる支援等、適切な指導・支援を具体的に行う必要がある。
- ・学校全体で児童生徒に対する考え方をそろえること、全校と学級の目標を連鎖させること等、組織的な校内体制づくりを行う必要がある。

【参加者の感想等】

- ◆困難さを知った上で、どのような指導を工夫していく必要があるのかということがよく理解できた。大変分かりやすく、実践に向けての意欲の高まる講話だった。
- ◆授業UDの支援で誰一人取りこぼさない授業づくりを行うこと、そのために学級の中の気になる児童から見えてくるものをもとに、児童が主体的にできることや達成感を実感できるように、ゴールイメージや見通しをもたせていきたい。
- ◆特性に応じた指導、支援について学ぶことができた。対処ばかりを校内で話し合うのではなく、その子の目標や目指す姿を共有することが大事だということ再認識できた。
- ◆組織的に取り組んでいくために、目標の検討や共有は欠かせないと感じた。個別の指導計画だけでなく、日々の授業や行事について、実態や家庭の願い等も含めて十分に検討し、より具体的な姿として支援員も含めて共有する場を作っていこうと思う。